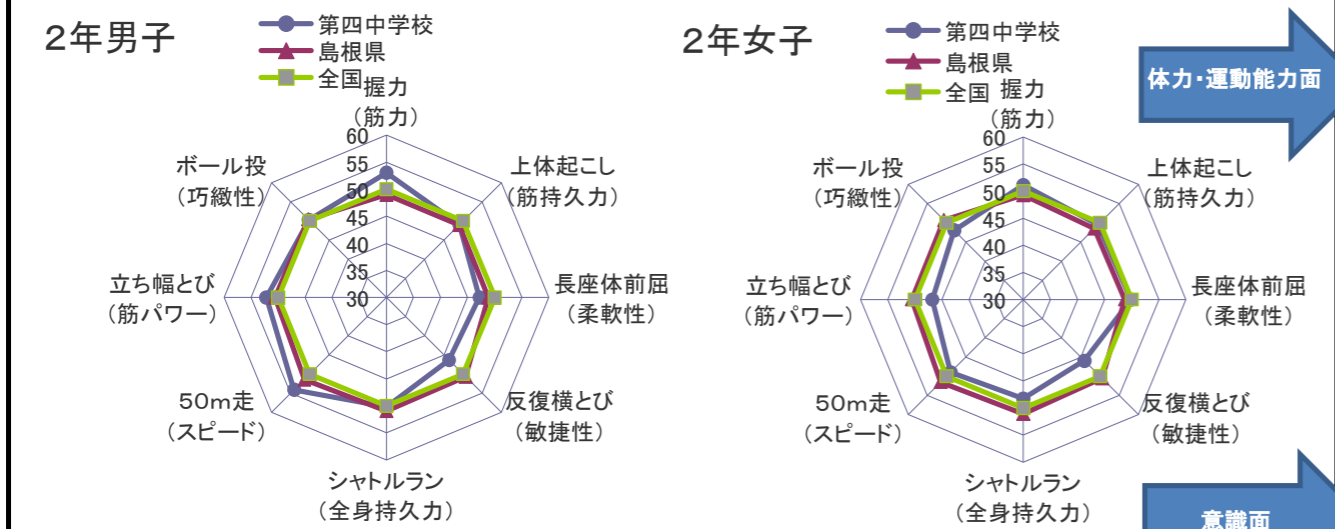
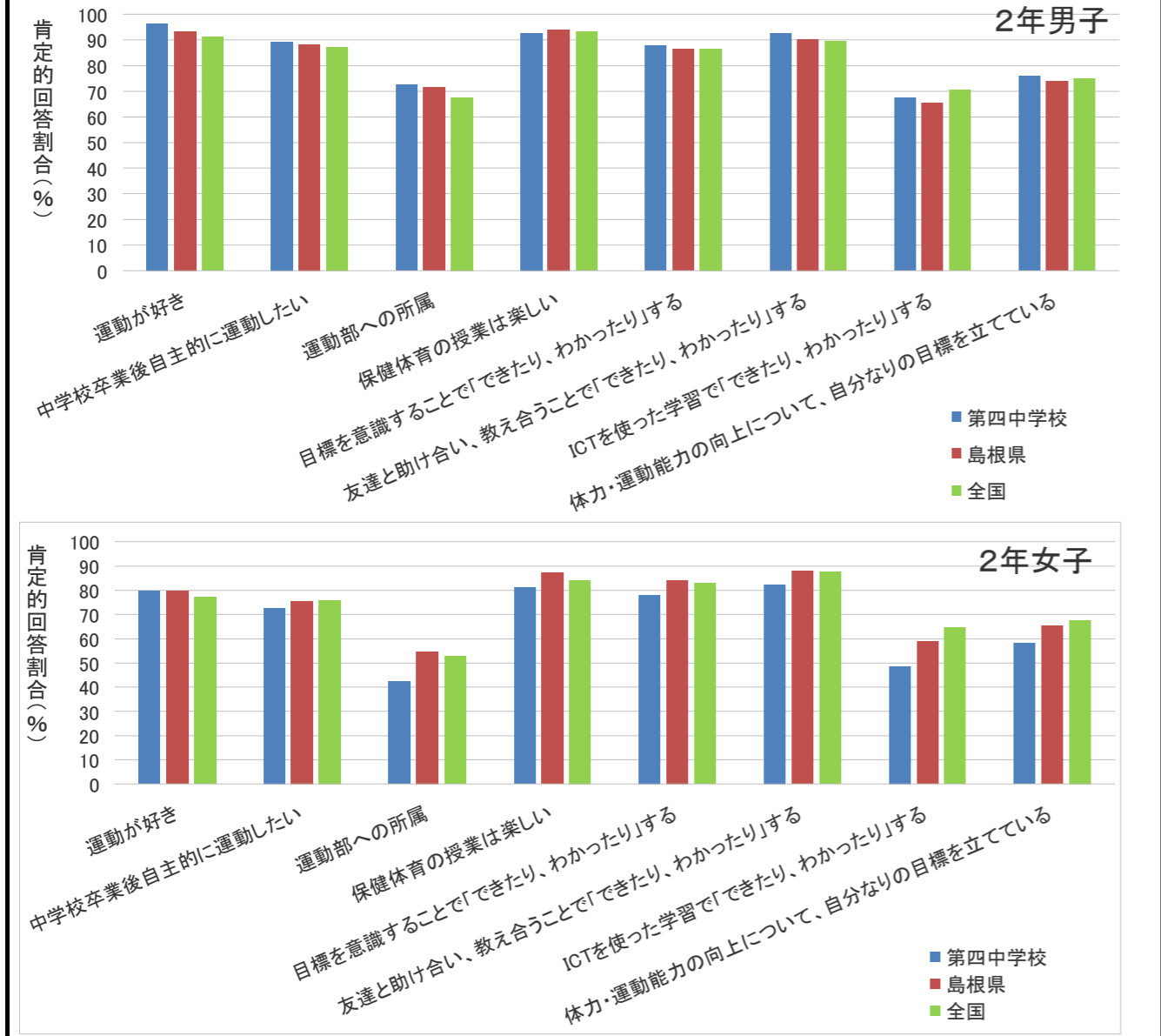


(1) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査<意識調査>の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(2) 調査結果の分析

①体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較

	握力(筋力)	上体起こし(筋持久力)	長座体前屈(柔軟性)	反復横とび(敏捷性)	シャトルラン(全身持久力)	50m走(スピード)	立ち幅とび(筋パワー)	ボール投(巧緻性)
男子	3.1	-0.9	-2.8	-3.7	0.2	4.1	2.2	0.3
女子	1.1	-0.5	-0.1	-4.1	-1.7	-1.0	-3.2	-2.0

Legend: [-5p以上] 弱み, [-5~-2p], [-2~0p], [0~2p], [2~5p], [5p以上] 強み

②意識面 全国(割合%)との比較

	運動が好き	中学校卒業後自主的に運動したい	運動部への所属	保健体育の授業は楽しい	目標を意識することで「できたり、わかったり」する	友達と助け合い、教え合うことで「できたり、わかったり」する	ICTを使った学習で「できたり、わかったり」する	体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている
男子	5.3	2.0	4.9	-0.5	1.3	3.2	-3.0	0.9
女子	2.5	-3.4	-10.5	-3.1	-4.8	-5.3	-16.0	-9.6

Legend: [-7%以上] 弱み, [-7~-3%], [-3~0%], [0~3%], [3~7%], [7%以上] 強み

(3) 令和8年度の方針【学校全体での取組】

- ①自校の体力的課題の解決に向けての授業での工夫・改善
男女ともに敏捷性に課題があるため、授業始めの補助運動として、敏捷性を鍛えるドリルゲームをする。例えば、「ミラーゲーム」のように2人組で1人の動きを真似をする補助運動を取り入れることで、敏捷性の向上に取り組む。
- ②運動の二極化を防ぐための授業での工夫・改善
運動が好きで保健体育の授業は楽しいという生徒を増やすために、できた・伸びた・分かったが実感できる授業作りをする。例えば、記録の伸びや課題の達成度が可視化できるワークシートを使用することや、グループワークを取り入れ、お互いの出来栄を評価するような活動を取り入れていく。
- ③ICT機器の効果的活用
生徒の理解を深めるためや多角的に自分の動きを振り返るために授業の中で効果的にICTを取り入れていく。例えば、意見の交換をタブレットで行い、リアルタイムで情報の整理ができるようにすることや、自分の動きを撮影し分析するなど、効果的に取り入れていく。